



繁殖地でハクガン研究 45 年の V.バラニューク氏が

越冬地の大潟村で語る、ハクガンの話

ウランゲル島のハクガン(撮影:1991 年 6 月、ワシーリー・バラニューク)

「日本の空に復活したハクガン ～故郷のウランゲル島の今～」

Part3

渡りが途絶えた東アジアのハクガンの群れを復元させるため、日本・ロシア・アメリカが国際共同し、「東アジアへのハクガン復元計画」が 1993 年に始まりました。

今回は、ロシア・ウランゲル島で 45 年間ハクガンの研究を行ってきた V.バラニューク氏を、ハクガンの国内最大の越冬地となった大潟村に迎え、復元計画の成果を振り返るとともに、日本とも関係するウランゲル島のハクガンの現状を紹介し、東アジアのハクガンの現在の姿を参加者の皆さんと共有し、その未来を考えます。

主 催: 日本雁を保護する会

共 催: 大潟村千拓博物館、大潟村の自然を愛する会

講演会開催要項

と き: 2025 年 11 月 29 日(土) 14:30-16:30

ところ: 大潟村千拓博物館 (要申込・先着 20 名)【対面のみ】

参加費: 無 料

申込先: 大潟村千拓博物館

TEL: 0185-22-4113 または

e-mail: museum@vill.ogata.lg.jp

住所: 〒010-0445 秋田県南秋田郡大潟村字西 5-2

[プログラム]

- | | |
|---|--------|
| 開会あいさつ.....大潟村千拓博物館 | (5 分) |
| 1. 日本でのハクガンの歴史的変遷とは東アジアへのハクガン復元計画 | (30 分) |
|呉地正行(日本雁を保護する会) | |
| 休憩 | (5 分) |
| 2. ウランゲル島の自然とハクガン | (60 分) |
|V.バラニューク (P F F: 北ユーラシア・ガンカモ類作業部会) | |
| 質疑 | (15 分) |

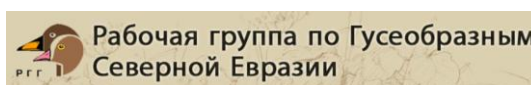
ワシーリー・バラニューク Vasilii V. Baraniuk 氏



プロフィール

ワシーリー・バラニューク (Vasilii V. Baraniuk、愛称: ワーシャ)

ロシアのウランゲル島国立自然保護区研究員を経て、現在はモスクワを拠点とした、ガンカモ類の調査・保護・持続可能な利用を目的とした組織である、北ユーラシア・ガンカモ類作業部会 (P Г Г /RGG) に所属する鳥類研究者。



<https://www.casarca.ru/proekty-rgg>

(Association of Specialists in the Study and Conservation of birds "Working group on Anseriformes of Northern Eurasia")

バラニュークは、毎年、ウランゲル島の雪が消えハクガンが飛来する時期に先立って、4月初めにウランゲル島に渡り、ハクガンが繁殖・換羽し幼鳥も飛べるようになってウランゲル島を去るまでの期間、島で調査を行い、9月末にモスクワに戻るという生活を、なんと45年も続けています。20代以降のすべての時間をハクガン中心に過ごしていることには感嘆するしかありません。

1993年1月の仙台でのハクガン復元計画会議には、シロエチコフスキー、リトビンと共にロシア側メンバーとして参加しました。この会議の話し合いを基に、1993年春から夏に復元計画が実施され、バラニュークは岩渕、池内、柴田らと共にウランゲル島でのハクガンの卵採集と移送を担当しました。その後、バラニュークは来日していませんが、2016年と2020年の日ロ渡り鳥条約会議では、ロシア側の発表原稿を作成し、ウランゲル島のハクガンの状況を詳しく知らせてくれました。

ウランゲル島での調査を継続するには、渡航費用を含めて、財政的に困難なことが多く、1990年代に実施された米国・日本とのハクガン共同調査や復元計画は、この点でも有用だったと思われます。今回の来日も、できるだけ支援（心情的にも財政的にも）につながれば良いと考えています。

バラニュークは、調査の傍ら、ウランゲル島の素晴らしい自然を、カメラに収めることにも力を注いでいて、その一端は、ユーチューブの次のチャンネルで公開されています。

www.youtube.com/@snowflyer

<https://www.youtube.com/@snowflyer/search?query=snow%20goose> (ハクガン関連)

今回の来日も、彼は、広範囲の人々に、写真や映像を展示し紹介したいと希望しています。